+ 7 0

日

ほ

そん 会し

た。

そん 過。

な訳

4

登

る

0 北 明

で 成 再

あ

0

1

n

7

き

カン は

嵐 ラ ッ

活

動

0

ず、

2

0

翌日

晴 が

れ

救 日

助 は

依

頼 0 時

な Щ

0

た

の

雨

見み紙

重 た

0

感

けざるをえ

な

V

大き

程、 を受

努力も大きくな

壁

ス

ス

V

行

が で

人影

を

発 IJ

が

通だ

が

ても

達成

でき

な

木

壁に

氏 経 パ

夏 7 6 九

Щ ル

過

ヴ

トに は

到 +

由

日

八

日 +

六五

年六月

日

2

べ

IJ

鉄

道

により彼

と組

む

ことに

した。 そ 3

1

大きすぎた。

N

な が

壁

0

コ

ンデシ

P

1

ガ

北

壁

か

ら二十

五.

高 \mathbf{H} 光 政

すよう より当 カン すことに オ 進 1 時 月 言を受けた。 プ 它 0 + な 想 お 1テ 0 逢 H た 東京 出 で そ 記 き 1 0 N を ス な 1 な そこで 訳 Щ ス で て、 Ш に 筆 岳 を 出 博 \mathbf{H} V く危険 た て きた から 0 が 北

去百年間に この に単 た。 で待機 な T な な 年 身 彼 が か VI o ガ 1 で八月 ガ は ほ IJ ば 3 1º E 7 カン 1 1 北 " ŋ 悪 P 2 デ 壁 4 6 天 ツ 夫と VI 月 思 途 で 北壁上半は 雷 中 う安心みた が + あ でビ 強 たが、 ピ 日 組 登 0 1 1 雪と氷が多く冬景色み ザ 突 増 ザ ク。 ク。 VI イル なも 1 で、 ル + 2 を組め 0 0 + を感 頃 日 ま フ

ず

プ

な + 独

下 頂上通過

夜明、

7

ル

F.

グ

0

T

よう

だ。

結果は

逆

6

0 ると た。

運

U がば大丈

V

単

で

登

立り続け

救助依

頼

K

行

0

0

よう

かなも

55

0

7

私自

自身は

ア

ガ

に

対 たと想像 ピ

し高額

ŋ

つき

保険

はまで用す

意

6 な割 替え

の失敗で墜落し

でき

また

セ

ル

フ

1

をい

0

た

ん外外

7

VI

恐らく

应 E

口 V

目

0

バ

1

ク

0

時

T

V

た。 IJ

翌朝その ッ

反対動 羽毛服を

作

0

た ŋ

8

K

闇

0

西

壁

渡部氏

は

楽観的

で絶対に 0

登

れ VI L

私とア 0 満彦氏 たごとく故障 イガ 私 は単 0 足が 1 独 K 7 行 登 る た。 0 " 目 0 4 もり 的 そ 6 N ホ で

あ 状況判 すごく から 0 出 ٤ K 氏 な カン 四 0 8 景色と 渡 胸骨 ラバ 0 て な 日 VI 走 顔 下 P 四 VI 目 る。 ザ to 0 1 ボ 1 b をえずビバ に 化 運 朝 0 ス 十三日朝 ル 信号を送 悪く北京 墜落で足を骨折 して 5 は 卓 7 0 退 晴 固定、 日 却不可能 れ 目にそこでビ 出 壁の た。 0 タ方十 1 っても確認 ・ク用 中間 動 新雪で れでも カン な高さまで登 トメルト か る 具全部 な から 七 スリ でもぐる水 ほ W 時頃 動 1º 一神 よう 登るし 完全 さ 面 け 1 ッププ 0 次渡部 を彼 なく n 0 K 言 雲 な 0

スで

セ

フビ

レー

を外

ケ

を

を見た。

彼は

小

3 1 て

なビ

バ

1 0

ク 危

テ

で

2 ル

クより

取 +

出

し



1990 年 (平成二年) 月号(No. 540) 日本山岳会 The Japanese Alpine Club 定価一部 150 円

目 次

アイガー北壁登攀から25年高田光政…(1) 第18回山岳史懇談会……(2) 「峠のオボー」 東西南北…………(3) 「会員通信特集(5)」 図書紹介……(5) 「今西錦司」他9点 自然保護随想………(6) 報告………(10) フィルムライブリーご利用につい フィルム委員会保管リスト (2)…(12) 会務報告……(16) 住所・住居表示変更 ……(17) ルーム日誌 ………(17) タンボチェ僧院再建協力募金者ご 芳名……(17) 新入·復活会員………(18) お知らせ………(19) 科学委, 自然保護委, 日本登山

▶日本山岳会事務取扱時間 月,火,木,土曜 10時~20時 13時~20時 水,金曜 日曜・祭日は休み

医学研究会,他

▶図書室開室時間 日曜・祭日・月曜を除く毎日 13時~20時

イド 見できず で 発見 デ 0 0 ぜこん が北壁 た て ル ヴァ か L ٢ 今でも ま 日 に、 なこと う結 基部 本 0 ル 国 た。 ガ 1 内 不 6 0 IJ 区 遺 ガ

らせテーブ電話 六 六 五

九

険 1

その場にそのまま残

0

VI

る

0 1

を発見

私

は北壁

0

Ľ

バ

クで

彼

私が

彼を北壁に固

定し

たザ

ル

が、

を

屻

0

た

か

8

れ 7

な

ま

で

推

理 1

ス

コ

ミは

私

が

ザ

ぎが広が

0 知

た。

L

か ٤

翌年

月

(

お知 234

なおりかもしれない。 なしの開きなおりは論外とする。遭難 る。単独行を切り替えたところが開き でにアイガー北壁の挑戦を計画した。 つきであるが記録は登ったとされてい この登攀の約四年前、 私は仲間とす 努力

きなおりで達成することもある。

いこともある。

そんなときある種の開

欧するなんて私には夢の夢であっ

た。

底クラスで計 画した。 当時航空便で渡 かった。このとき渡欧は船底部屋の最

しかし海外渡航禁止の時代で実現しな

今では笑い話であるが、米俵をかつい と思っていた。明治維新で鎖国は終っ 間がその裏づけとなる。そんな時代か ければならない。 京オリンピックまでは再鎖国と考えな の外米は日本人に向かず元気がでない で乗船する計画もあった。ヨーロッパ ら米俵乗船の発想が生れたのである。 たと思っているが、第二次大戦から東 一般海外旅行禁止期

告

第十八回山岳史懇談会

橋 大 学 山 岳

部

0

2

山岳部の歩み」が三月二十四日の午後 ルームで開催された。 第十八回 の山岳史懇談会「一橋大学

個性的な活動を展開してきた六十余年 一郎名誉会員をはじめ、 山本健一郎会員、 他の大学山岳部とは異質で 倉知敬会員 望月達夫名

(撮影・伊藤博夫氏)

ユニークな大学だが、

出身最長老の吉

て優れたビジネスマンを育成してきた

橋大学は、その草創期から一貫し

会場風景

時に入部した吉沢氏の話は、 スター とりわけ、大正十一年に部創立と同 縦横にエピソードを披露し、 橋の面目躍如であった。 談論風発 3

> がポンポン飛び出す吉沢氏独特の語り 時効とはいえ、財界の先輩、 口は迫力満点。 まず、 活動資金集めの秘話。 友人の名 もはや

トは、 と本人が発言して爆笑。 場内一瞬シーンとしたが、文句あるか 美しい秩父を歩いていたから。 ていた言葉であったことと、 いのでこき使われることもないから。 もなく、まだ山を知っている先輩もいな 1 山岳部を選択した理由は、 スで楽しめることにつきる。ルール 部報『針葉樹』の名づけ親は私だ。 テニス部、柔道部にも入ったのに、 よく早稲田の部報の誌面にのっ 針葉樹のヒン 山はマイペ 針葉樹の

水野祥太郎氏との出会い。 早かったはず。十二年の北アルプス裏 学単位のスキー合宿としてはもっとも 山歩きで山登りではないと謙遜の言葉 連峰で深田久弥氏にお茶を御馳走にな で締めくくった。 った思い出。 銀座縦走で当時十五歳の中学生だった 交流など。 大正十一年暮の野沢スキー合宿は大 早稲田、 吉沢氏は最後に、 慶応の山岳部と 東北、 私のは 朝日

全助氏の創意工夫に満ちたトレーニン 氏が大変怖かったという告白から始ま 法や登はん技術など天才的クライマ 昭和七年入学入部の望月氏 のエピソードの数々を 紹介(筋力ト いまや伝説的存在となった小谷部 は 吉沢

った。

閉会後、

Щ

本氏から、大学の部室で

出席者四十一名

て考えさせる示唆に富んだ懇談会であ

発見した小谷部全助氏の自筆の原稿と

など)。さらに、一橋大学が、 北岳バットレス登はんでの組立はしご レーニングのため部屋に鉄棒を設置、

三十人を超えることがなく、とても極 百人という小規模の大学では、 大学のスケールの問題で、 ップクライマーがとっている登山スタ イルで登っていたことにふれ、 人数で短期間に登る、 大学で全盛だった極地法をとらずに小 今日、世界のト 全学で千二 戦前の各 実は、 部員も

とりくんだことなどを系統的に解説。 なあり方は、 きた一橋大学山岳部の伸びやかで自 素晴しさをかみしめるように話した。 以来の激動の時の流れの中で、 天狗尾根、三十一年北岳バットレスに り、海外遠征をめざそうと、三十年鹿島 奥又合宿。 内容をふりかえりながら、戦前の滝 地法は無理だったとその真相を。 雰囲気を守ってきた一橋大学山岳部 海外遠征について倉知氏が報告。 部復活の動き、 人までの多様な山行を相互に尊重して 戦後組からは山本氏が 前衛的なクライマーから低山趣味の ついで、アンデス、ヒンズークシュ 戦後昭和二十八年頃からの 登山そのものをあらため 早く戦前のレベルに戻 『針葉樹』 自由 創立 0

稿で、 月十四日の消印、 ているように見える。 小谷部氏の思いが今もしっかりと残っ たもの。 穂高周辺の冬山計画を部室あてに出し 入っている。 和十年十一月発行)に掲載の「錫杖岳 された。 「N君の遭難に関係して」の貴重な一 小生泉州山岳会にも所属、 当時の編集者望月氏の赤ペンが 一片のはがきだが、冬山への 原稿は『針葉樹 通 はがきは昭和十五年十二 暮から正月にかけて (5)第八号 川合 創立五十

周年記念事業として全県最高峰を歩い

大阪・百田治人(八七一八)

全国大会に参加、紅葉の大山は素敵で 月二八、二九日に米子市での支部

人が同行した

晴れた日、馬で近くの峠に登ってみた。二人のモンゴ

山

行計画のはがきが図書委員会に寄贈

0 オ

だ山歩きである。 り、森林を抜け、湿原に足をとられながらの変化に富ん ンギス・ハーンの陵墓を探そうという仕事だ。 の学者、専門家たちから成る合同調査隊を組織して、 登山ではないが、 ンゴル、日本両国の考古、 モンゴル人民共和国東部ヘンティー山地に来ている。 山歩きが多い。 地質、 地理、 それも獣道をたど 物理探査など チ

う」と、モンゴル人は最初の雪がチラチラ舞い始めた時 足を踏み入れない。その静寂が、何よりも素晴らしい。 林帯に位置しているせいか、今なお遊牧民もこの地には 祖への畏敬の思いから、禁制の地、とした。 るこのあたりを、チンギス・ハーンは十三世紀初め、 五月の初め、連日吹雪に 襲われた。 最初のベース・キャンプ地とした川のほとりの台地は オノン、ヘルレン、トゥーラの三つの川の源流が集ま 「三日間は ダメだろ 北の山岳森 先

るような気分になる のお茶。甘さはない)をすすっていると、テムジン(チ を聞きながら、モンゴル独特のスーテー茶(ミルク入り 窓から吹きこんでくる雪もさして気にならない。風の音暮らしは悪くない。ストーブのマキが勢いよく燃え、天 予測したが、その通りになった。 ンギス・ハーンの幼名) 停滯の日、 ゲル (移動式フェルト製テント) の中での の時代がそのままに息づいてい

た。 囲を右まわりにめぐって、無事を祈り、記念写真を撮 あった。私たちも細い布片れを小枝に結び、オボーの周 いる。お金やチベット語の経文が書かれた木板も置いて 枝が無数に集められ、色とりどりの布が結びつけられ 峠には、 オボーがあった。 一本の木の幹のまわりに

顔をした。 人にとっては道標ともなるものだが、その時はオボー ングリ(天)を尊ぶモンゴル人の古くからの習慣で、 人もいた。 カメラを向けると案内の土地の幹部たちの多くは、 った時にも、峠や小高い丘にしばしばオボーを見た。 三年前、 夏のモンゴルを一万。近くジープで走りま 「迷信ですから」と、 撮影させまい、 とする

行なわれている)が、ことしから復活すると聞いている。 こみ始めている。 迎えたようだ。知らない間に、 ていなかった「オボー祭り」、中国内モンゴル自治区では うした気運の中で本来の役割を得たようだ。長らくやっ を取り戻そう、とする気運が強まっている。オボーも、そ いま民主化の進むモンゴルでは、 ヘンティー山地は五月なかばになって、ようやく春を 習慣を重んじよう、忘れていた「モンゴルらしさ」 凍土の草原に緑がはいり 民族の古くからの伝

いくぐれ、というのだろう。 って、くすぐるようにするんです」。クマがくすぐったく て笑い出してくれればいいが。 わしたら」と、土地に詳しいモンゴルの学者は忠告する。 自然も、すごい 「逃げては必らず追いつかれる。 「そろそろクマがあちこちに出没します。 九回目のモンゴル。 要は強烈な腕の一撃をか わきの下に横からはい (江本嘉伸) もし、

た設営と腹いっぱい御馳走になったカ ニに心から感謝しております。 山陰支部の皆さんの心のこも

山口・浜田 宏(八七一九)

熊本・門脇愛子(八六〇五) 京都・久我良房

大分・清水巌(一〇一五四) 長野·宮原利重(八六一六)

山口・岡本康夫(一〇二七四)

日本人をしてきましたので仕事、仕事 ます。しかしながら働き蜂、典型的な 抱く、小生の歳時記的用語になってい くたびに今年もあとわずか…との感を で出席できません。 毎年、年次晩餐会の案内は、いただ

千葉・小川益男(八七四三)

アルチン山に行ってきました。 中国甘粛・青海省の境にある 秋田・大里裕一(八七四八)

た。七、体重が減りスリムになって帰 岳会の隊員として行ってきました。友 人二名が北稜より初登に 成功しまし トリエリア、バギラティI峰へ会津山 八~九月にインドヒマラヤ、 ガンゴ

国しました。 福島·大竹幹衛(八八三三)

> た)も終わり、十一月はうって変って 暖かい日が続いております。 大雪渓では九月までスキーができまし 残雪がことのほか多かった夏 (乗鞍

長野・松久幸司(八〇三四)

ドーザーがうなり、伐採が進むのでは になりました。 ないかと思われ、やりきれない気持ち 出かけてきました。原生ブナ街道と記 えることができませんでした。ただ恐 された道標のあたりは荘厳で感動を抑 ろしいことには、ここにも林道のブル 十月二一日、二度目の海谷駒ヶ岳に

愛知・深谷 泰(八八八三)

九月八海山、十月早池峰縦走、 御座山、 最近の山行一八月越後駒~丹後山、 両神山。 十一月

埼玉・戸谷 翠(九〇三六)

登山を行ってきます。 の国際交流行事として、 十一月十七日から、 新潟県山岳協会 韓国での親善

新潟・田中純夫(九〇九二)

難は山を甘く見ているとしか思えませ に遊びましたが、 十月初旬の立山における年輩者の遭 私は中一の息子と八~十日と北岳 稜線まではTシャツ

次代に残そう美しい山と溪

夏と冬とが同居している様です。 枚、それを越すと冬でした。秋山は

りました。山形もよく、変った素晴ら が、道もないヤブ稜線を久し振りに登 有名山の陰になり人気のない山です 広尾岳(一二三〇ぱ)へ行きました。 しい登山が楽しめます。 十月二八~二九日、日高山脈南端

しつつ、旅は一層興味深く、今さらな 山の花が真盛りのコースを歩いてきま がら氏の偉大な業績を偲びました。 した。槙有恒氏の『私の山旅』を拝読 ンヒ、ユングフラウ等を仰ぎながら高 今夏はスイスへ参り、アイガー、

うけ、素晴らしい自然が破壊されよう その反対運動をしております。 重な夕張岳植物群落が絶滅するので、 場計画で、もし実現すれば世界的に貴 います。特に問題なのが夕張岳スキー としており、その保護に全力をあげて 北海道は唯今リゾート開発の大波を

静岡・山内真行(九一四九) 三国登山隊公式報告書の発刊

まりましたのでお知らせ致しま のたび本会より公式報告書がまと 新聞社より発刊されましたが、こ 先に三国登山隊の写真集が読売

- 発刊日…五月二十五日
- 内容、仕様…報告、学術 三百五十頁、 報告、資料の三部構成でB 頒価五千円

北海道・加藤盛一(九一八九)

- 編集、発刊…登山隊編集委員会 販売取扱い…日本山岳会事務局
- 北海道・八木健三(九二四八)

とで辛い山行の一年でした。 体力の減退の早さと膝の古傷の再 東京・川口和男(九二六〇)

東京・宮前淑子(九二二四)

す。組織的な指導の場が必要と思いま 不足とマナーが問題になっておりま しておりますが、平常のトレーニング 最近の山には中高年が目立って入山

栃木・臼田徳雄 (九二六七)

す。

(4)

道でしたが、 九四三へ山行しました。往復路はやぶ 十月二一日、 全山紅葉になりよい山行 福島支部で飯豊山系P

福島・ 松井忠治 (九三五九)

間 だまだ大丈夫という思いでした。 ピーク 九四三点 への登山 は 往復五時 ました。十月の支部行事、 という言葉に抵抗を感じるようになり 薮の連続。 スコミで使われる「熟年登山者」 福島・大友 繁(九三六九) 歩く速度は遅くともま 飯豊山麓の

に山の生活回顧の文章を入れました。 自伝『恩寵の七十年』を刊行、 今年三月で定職がなくなり、八月に その中

北海道・有馬

純(九三七〇)

おります。 で「ふるさとの富士紀行」を連載して しました。現在、『山渓情報版』(季刊) 読売新聞社を退社し大学教員に転身

東京・川村匡由(九四二〇)

越後駒外 ります。月山、早池峰、安達太良、 どの山を天気を見計らって楽しんでお 朝日、 北海道の一〇〇〇~二〇〇〇 アポイ、富良野岳、 壓

> 平. -松勝司 (九四五 八

ば 客を大事にしてくれ、日本の山よりず 山の花も美しく、ホテルの人々も登山 の山を歩いてきました。静かで、山も、 っと安上がりでした。 ーロッパ放浪のあと半月東部スイス かり歩いています。今春も二ヶ月間 この三~四年、 奥多摩のヤブ岩尾根

東京・二木久夫(九四八五

ればの山です。 薮笹、 心に年三、四十回ほど入っています。 ってきました。南アルプス最南部を中 年齢のせいか、 獣道、 樹間に覗く景色…未開 静かな山が好きにな

静岡・永野敏夫 (九四九四

す。 の紅葉の素晴らしさを楽しんでおりま 吾妻、一切経、 裏磐梯銅沼等、磐梯朝日国立公園 天元台、 安達太良胎

福島・長沢愛喜 (九五〇二)

ているようです。 年齢とともにヤブ山病が悪化してき

神奈川・高部正夫 (九六五三)

、追信・編集部宛

ライアスロンに夢中になり三年。 支部の久保田保雄君にあこがれ、 五月 年 7

帰ります。よろしくお願いします。 ま 0 命を取り止めました。良くなったら た、ヒマラヤの夢を追いながら山 連休前にバイク(自転車)にて落車、 歯八本、 静岡・杉本宣明(八七一一) 頸椎、骨折して、 九死に

义

今 西 錦 司

自然を求めて―

斎藤清明著

著者による今西錦司論であり、今西錦 として出版した、 都大学学士山岳会がその五十周年記念 西家をなんどとなく訪問している。京 の登山に同行している。 学学士山岳会の会員で、 新聞の社会部の記者で、 著者は、今西たちが創設した京都大 の人物、 への道―京都大学学士山岳会の五十 これは、今西錦司を心から敬愛する 央公論社 その業績の解説書である。 (一九八八) 今西錦司編 取材のため今 現職は、毎日 しばしば今西 の本文の 『ヒマラ

よみあさっていた。 にあこがれ、 農林生物学教室で、 る。出身は今西と同じ京都大学農学部 大部分は、 著者の執筆によるも その関係論文や出版物を 学生の時から今西 のであ

ろう。 あろう。 る著者にとって、 検家であり、 今西錦司をすぐれた登山家であり、 命の努力をかさねた結晶というべきで てもらおうと、 も敬愛するかを他の人たちにも理解し 今西錦司をほめすぎだ、わが仏尊し の批評をよく耳にする。しかし、 むしろ、自分はなぜ今西をかく 学者であるとして敬愛す 冷静に、まじめに、 それは当然のことだ 懸

ちのいずれかが強烈に目だつことがあ ことはない。 るけれども、 存在している。時代によって、そのう アカデミズムの精神が渾然一体として 山と、探検と、パイオニアワークと、 今西錦司には、 けっして、他を無視する ワンダリングと、 登

とするものであり、その歴史的な解明 求めつづけ、 りつづけた。 のために既存のすべての進化論を排し 全体社会を社会構造論的に解明しよう ようと努力した。 それは、種社会の まで、今西錦司は、 棲みわけ」をつうじて地球上の生物 少年時代から、 自然を全体として理解し 登山をつうじて、自然を 病床につくにいたる 生涯一登山家であ

った。 独自 の進化論を提出することにな

それが著者の結論である 自然を求めつづけた人―今西錦 司

00円 一九八九年十二月二十五日 火山と人間 四六判 二五四頁 (岩坪五郎) 定価一四

火山取材班 南日本新聞 著

.......

資源、 はまことに都合がよい。 山に関する最新の基礎的情報を得るに 殆んど余す所を知らず、火山の災害、 取り上げられ、まめに解説されていて 活動の人に及ぼす影響が広く多角的に 価値もないとは言えない。むしろ火山 からと言って、 ていない。 待するが、 本の標題から登山に関してもつい エネルギー、環境問題など、 その意味では全く触れられ 登山についての配慮がない 登山家にとって一顧の 火 期 然だが、 催された学術イベント

と人間 灰に 悩まされ 続けているから、「火山 ある。鹿児島市は数十年間、桜島の降 れたシリーズをまとめたものが本書で 三年六月まで一年半にわたって連載さ の紙上に、 鹿児島市に本社のある「南日本新聞」 のテー 昭和六十二年一月から六十 マに関心をもつのは当

である。

ーグでもあった。

の火山、

数の経験者から直接聞き出し、

【自然保護随想

上 高 地 ダ A

とを知っている人は少くなった。 昭和三十一年に、上高地にダムを造る計画がもち上っ それが主に日本山岳会の反対で取り止めになったこ

であった。 て、それから上流を人造湖にし、 上高地ダムは高さ四十五点のロックフィルダムを築い 島々谷に分水する計画

計画を阻止しなければならないと訴えた。それに対して 黒田正夫さんが強硬な異議を唱えた。 その年の年次晩餐会の席上、 副会長の松方さんがこの

て育った。その姿を人工で変えられてはたまらない」と い。反対することには価値はない」と言うことであった。 積地形だから 人工のダムが 出来ても 本質的に 変わらな 松方さんは「日本のアルピニズムは上高地を基地にし 「上高地は周囲から堆積物があって、そこに出来た冲

反論した。

た。 言を抑える」と吐き捨てた言葉 は 重苦しい後味 を 残し 場した。「日本山岳会は役員本位の会で、 位にして………」と進行責任者の立場からなだめると、 黒田さんは激怒して、 折井さんが「本席は年次晩餐会なのだから議論はこの 会員章をテーブルに叩きつけて退 一般会員の発

まとめるのを諦めて殆ど独りで突っ走った。 このことがあったせいか、松方さんは山岳会の与論を

思う。 ること、 松方さんのやり方は、各方面の人々の意見を広く集め 将来を予見した考えを盛ることであったように

のであるが、 の活動が実効の中心であったように思われる。 スコミは自らの手の中にあった。 国立公園協会などと協力してダム計画阻止に成功した それに松方さんは共同通信の専務理事であっ 私には日本山岳会の名で行われた松方さん たから、

7

松丸秀夫

均三頁弱の読み切り的解説記事の集成 山会議」に呼応して企画されたプロロ いて、丹念に観察した上、専門家や多 アイスランド、ジャワの現地にまで赴 内容は一二六項目に分かれ一項目平 温泉地やニュージーランド、 十一名の新聞記者が日本各地 昭和六十三年七月に同市で開 「鹿児島国際火 感じと 線」、7「有事の備え」、8 が取り上げられ緊迫感があるが、 第一部は火山活動中の島の住民の生活 10 かす」、9「探れ火山との共存の道」、 島」、5「温泉の効用」、 1「噴火の島で」、 る。各項目は十部にグルーピングされ、 火山の利用や噴火予知など先端的将来 み」、3「あすの資源」、 2 た事柄をベースに文章が書かれてい 「世界火山の旅」から成っている。 2 「マグマのめぐ 6 4 「生かせ桜 「観光に生 「予知最前 他は

読む人は明るい共感を覚えるだろう。 取り組みが「禍を転じて福となそう」 強の跡がうかがえる。本書の火山への 紹介など多くの専門分野にわたり、 エネルギーやシラスを用いた新素材 的な方向に目が向けられている。 とする意欲で貫ぬかれていることに、 判 九八九年八月刊 三六四頁 定価二〇〇〇円 岩波書店 A 5 勉 熱 0

正英)

京都 北 山 百 山

山クラブ編

設三十周年を記念して編集発行したも をホームグランドとして、 な魅力を秘めて我々を迎えてくれる。 き京都北山。標高は千片に満たない山 人を育てあげ、 し、歩き続けてきた北山クラブが、創 々の連なりだが、 「北山からヒマラヤへ」と多くの岳 京都北山百山』は、これらの山々 岳人の故郷とも言うべ 四季それぞれに豊か こよなく愛

記事の内容もバラエティーに富んでい ものではない。副題にレポート集とあ を丹念に歩き、 るように、会員たちが各自の好みの山 の印象をまとめたもので、 北山百山とあるが、 それぞれが感じた山 百山を選定した 筆者も山行 H

景が伝わってくるようだ。 そこはかとなく暖かい、 化にもふれ、各執筆者ともが、 と共に、日本海と京都を繋ぐ歴史や文 を繰るにつれて、奥深い山々の魅力と、 な愛情をもってレポートしている。 薮をこぎ峠を越え、 さまざまの自然 谷奥の村の情 細やか 百

> る山々は一七〇余山にも及ぶ。 囲外の山も多く含まれ、 本海迄の地域としているもの 収録され 0 T 範

か。 てほしい。の意とするところであろう じそれを消化し、自分の力で山を知っ ど記述されていない。これは序文にあ ことと思うが、 図をもとに地域的に分類されている。 毎にルート図が添えられ、五万分の一 トしたという五○○頁にも及ぶ労作 ガイドブックとしても大いに役立つ 『自分の力で山を歩き、山を肌で感 随所に写真と、ひとつひとつの山 一年間で新たに登り直して、 コースタイムはほとん レポ

といっそう趣が深い。 北山クラブ前会長の金久昌業氏の名 『北山の峠1、2、3』を合わせ読む

A 5 判 平成元年三月一日 四九五頁 金久千鶴子刊 (岡田茂久)

nanda devi the tragic expedition

RosKelley 著

NANDA・DEVI に遠征隊を送るべく DA・DEVI の美しさに魅せら 、登山家はその後生れた娘に、 デヴィと名づけた。その娘が長じて E マラヤトレッキング中に ナンダ れた米 NAN-

本書では

「北山」として、

概ねJR

山陰線に囲まれた

るが、

現地人達は NANDA DEVI(ヒ

奥深い北側氷河で氷の墓標となってい

因みにナンダ・デヴィの遺体は最

実現した。 初登頂四十周年記念登山として提唱し 回顧である。 九七六年の登頂と悲劇の

空しく吹雪にはばたくテントの中で息 成功している。二次アタック隊に参加 めて北稜上に出てバットレスにルート クロアールを通過し西面の支尾根をつ ガ経由「内院」入りのコースをとる。 いた体調が急変し、父と許婚者の介抱 スを登りきりC4に入るも危惧されて したナンダ・デヴィは難関のバットレ を開き、 名とインド人二名の構成でリシ・ガン 彼女自身そして著者を含む米人計十一 長ナンダ・デヴィの父 Willi Unsoeld。 の初登頂時の隊員 Ad. Carter、 隊長は一九三六年ティルマンとオデ 強力メンバー三名が第五登に 副隊

を引きとった。 隊員の入院、 悪性下痢の蔓延、 悪天

せ悲劇に至ったと述懐している。 互いの意地、 員が二つのグループに分れてしまい、 経験差による登山観の違いなどから隊 る寄せ集めの隊であったため、 るのに十分な経験を持たない隊員もい ・デヴィのようにヒマラヤの巨峰に登 ての登頂成功であった。一方、ナンダ **侯**、悪路、落石、 大雪崩などを克服し 遠慮が判断を誤 隊員の

が自ら遠征を計画し自分の家に帰った ンズー神話で喜びの女神の のだと言っていると。 意 の化身

rated Press. 九・九五 一九八九年刊 The Oxford Illust-二四〇頁 (南井英弘) 英ポンド

四 季 0 山

沢

に選書がでているが、 書いた。そのクラブの母体である新ハ が国屈指の会員数を誇るハイキンググ 目である。 イキング社から、 ループであることは、 新ハイキングクラブ(SHC) このところつぎつぎ 本書はその十巻 本誌五三四号で は わ

刊誌 が、 俳句の結社 ŋ という多才の持主である。 著者の沢聰氏は同社の出している月 本書の随所に生きている。 名イラストライターであり、また、 『新ハイキング』の常連筆者であ 「馬醉木」 の同人でもある その多才さ

りばめられた花、 は、 な夢を誘ってくれる。 沼の表紙にはじまる巻頭の原色版口絵 イラストは多才な筆者ならではのもの まず、筆者の描くトムラウシ山と北 明るさのなかにどことなく幻想的 本書にどことなく親しみとやすら Щ また、 鳥などの多くの 文中にち

和五六年から同六二年までの筆者の七 東京近郊を含む九コースの山々で、昭 から道志、奥多摩、 まとめているものである。 夏秋冬の四季それぞれ表情を変える山 沢までの季節にふさわしい 十三コー アから東北、北関東、 格的な山岳十コース、 の姿をガイドを兼ねての紀行文として ぎを与えている。 間にわたる計四一コースの山行記録 は上越国境から南ア、 はそれにふさわしい 外秩父から 最後の冬の山は鳳凰三山、北八ッ 日光山群が選ばれ九コース、 本文の構成は表題の通 西上州、高尾など 中央線沿線、 また秋の山は北 北アを含む本 まず、 夏の 丹 尾 0

珠玉の名品である。 が山と絵とそして俳句に生きた証し、 イの会員であると同時に本会々員でも に演出、 は眠るがごとし」が見事にしかも豊か るごとく、秋山は粧うがごとく、 読してみると、俳人沢聰の理想とする れには深い意味合いがある。全篇を通 書名はやや平凡なようであるが、 「春山は笑うがごとく、 是非一読をおすすめする。 一年三月 表現されていると思う。筆者 一五日 なお、 新ハイキング 筆者は新ハ 夏山は滴 冬山 そ

崑 崙 行

雁部貞夫歌集 雁部貞夫著

の旅、 るが、 観えてくる。 的 んでくるが、いずれも情感を抑えた知 しい姿が、歌からも紀行文からも浮か 年時代から山とかかわってきた著者ら なり大きなウエイトを占めている。少 う、三、中国西域の旅の紀行三篇がか な筆の運びで、 この本は初めての歌集と銘うってい 二、コタルカシュ氷河に友を失 歌は約二百首で、 読みながら山がよく 一、チトラル

L が、思い出して引っぱり出してみたら、 架にホコリをかぶって眠りこけていた ルク・ロード』(角川新書) しい山旅が描かれており、ことに三は を失った哀しみがにじみ、三はヘディ らしい新鮮さがあり、二は二人の岳友 興味をそそられる。一は若き日の山旅 か んだ。文中の推奨書、 まだ見ぬ山城だけに羨望感もをって読 ン、スタインの世界―中央アジアの楽 ると書いたが、私にはこちらのほうが かった。 なりの箇所に朱線が入っていて懐か もう一つ、 紀行がかなり大きなウエイトを占め 中学校時代の師宮地伸 深田久弥の『シ は私の 書

> だから、今後の作歌復活に期待したい、 著者はこれだけの作品を示しているの 冊の歌集が」といい、「登山家・探検家 文章を書く恩師に出会い、 葉は、 は、 に立ち向かったら、それだけで二、 をもって、 目は厳しい。 を受けたのである。それにしても師 いと思うが、私も少年期に歴史を教え つくってくれた恩師の影響は少なくな まず作歌力を持ち合わせない」 多感な少年時代に山歩きや歌会に アララギに入会するきっかけ 私 沙漠や氷河や回教徒の生 個 「もっと強烈 な 歌人意識 人的な感情を重 多くの影響 一ねて読 が Ξ 活 0 を N 書かれているのが成程と思われる立 な文章である。大学の講師の

がいい。歌と版画の歌集もまたいい 盃」というほど仲の良いご夫婦のよう と妻の得し皮にくるみしスペインの 第二歌集が楽しみである。 だからきっと佳い本ができるはずで、 ではないか。「山の清水ともに掬まむ と結んでいる。 それともう一つ、妻輝子さんの版 0 画

が収録されている。

平成元年九月二十五日 歌新聞社発行 二〇〇〇円 本文二二五頁 (伊佐九三四郎) A 5 判 定価 短

......

部牧夫著

間は自然を守れるか

社刊

A 5 判

本文三四三頁

定価

氏

0

崑崙行

のあとに、

と題する言

始めに著者のライフスタイルが書

六五〇円

ら五、 にあり、 てある。 広さは七〇〇坪ある。 六分のこんもりした雑木林の中 南東むきの日だまりで、 家は八ヶ岳 山麓、 信濃境 敷地 駅か

うにつかう。自然を愛し、 アルプの編集にたずさわっていると そこで、二十四時間を自分の思うよ 山歩きをする。 著述をし た

書かれている。 中 時々、東京に出かける。 程からは自然保護に打込む活 動が

事も

派

者が実践した例が挙げられている。 辞の術をつくせ、と書いてあって、 ておき、周到な論理を築き、 実な観察・調査をしてデータを蓄積し 発行 A5版 専門研究者や行政機関にまけない 一九八九年五月三十一日 五〇〇円 本文二〇六頁 松丸秀夫) 弁証と修 三一書房 定価 著 8) (

森に新風が吹く日 里山をみつめて十年

る人々について書いてある。 主に人工林と林業にたずさわっ T W

井原俊一

著

以上にその恵みを受けて生 んとうの自然と同じように、 人工林といっても長い間、 活 人々は 或はそれ してき

た

らは読みとれる その林業が危機に瀕して いると本書

決する問題だろうか。 だが、これが国有林経営の現状である。 書かれている。 こには目を覆いたくなるような惨状が 非生産性というが、 「非生産性の元凶」の まるで怪奇小説のよう 生産性だけで解 章がある。 ح

一九八九年七月二十五日 1100円 A 5 判 本文二二〇頁 (松丸秀夫) 朝日新聞 定

1 ボルト

六十年・そして二十年

て二十年誌編集委員会編 1 ボ ル 1 六十年・ そし

険邪悪の念慮は微塵もない事、」是で 悪意に充ち溢れることはあっても、 たぐひでない事、 極的なめそめそした幽霊亡霊 縦令積極的の明るい 陰 0

して人間の営みに思いを寄せる人な 舞う所の星を生むカーオスのたまし 舞踏するコーボルトの一群こそ、 汗牛充棟ただならず氾濫する山 を愛する者だけでなく、自然を通 は冒頭の言葉である。 踊れ、吹雪の中に躍り狂 正に ひ

> の一冊『コーボルト』を見逃す訳には ゆかないだろう。 の中にあ て、 静かに光を放つ珠玉

を垣間見る。 想いと蔵王に落した喜びや悲しみの涙 ヒュッテを通して注いだ蔵王への熱い 山を舞台に生きた青年達がコーボルト どのページを開いても、 それは自然を愛する者が 若き日 々に

モリトドマツの間を吹き抜けてゆく木 枯らしの咳き、 ば傾きかけ煤けた小さな山小舎、 りを縦糸に、囲炉裏端での談笑、 共通してもつ普遍的な精神活動の高ま 夜の静寂の中に聞える アオ なか

せる山小舎の周囲で踊る陽気な小妖精 の奥深い暗がりに精霊が住む祠を思わ 甦えらせる懐かしさ、ほろ苦さ。 樹氷の囁き、 忘れ去った山への感懐を読む者の心に 人間を横糸に、 その中に生き、思索する 早い時の流れと共に 蔵王

濃い影を落している。

思索を通して常に日本アルプスが、

ま

青春という舞台とその背景には哲学的 ある。だから場所は蔵王であっても、 (コーボルト)達の青春の足跡の記録で

たヨーロッパアルプスやヒマラヤが色

確かに踊り継いで行く。 吹雪のヒュッテで若いコーボルト達が り狂った妖精たちは全国津々浦々で確 かに踊っている。そして今日も明日も コーボルトヒュッテの囲りで一夜踊

旧制山形高等学校山岳部

から山

形大

学校の山岳部が作り上げた青春の山歴 学山岳部に名称が変っても、 として誕生したことに驚く。 証が七十年間の記録『コーボルト』 妖精たち

昭和六十三年九月十七日 ルト栄光あれ!永遠なれ!」 ト会発行 「……そして吾等が心の故郷、 A 5 判 二九三頁 コー ボ コ

ル

1

山に登り原稿を書いた一年余りの

ボ

は最後に呟く。

菊地俊彦)

創立四十周年記念号 日本山岳会山陰支部 陰の百山

日本山岳会山陰支部

p 平地を除けば山また山の日本で最も過 もらって、皆様に読んで頂きたい。 るさとの山」から百山を選んだ素晴ら 疎地域。その地にある山陰支部が「ふ 0 しい本が出版された。下手な紹介より 発刊にあたり 日本海側にあり、海岸線のわずか 山陰の鳥取・島根の両県は中国山 支部長港叶氏の序文を転載させて な 脈

薮山という観念で見過ごした感があっ 山 が登る対象の山となり、 たのも事実であります、 々に接する機会が少なく、 「行が多かったため、 岳会山陰支部創立四十周年記念事 会員のほとんどが雪や岩を求めて 大山やアルプス このたび日本 地元山陰の また低 山 Ш

地方の しました。 らしさを紹介しようとこの出版を企 し、一人でも多くの皆様に、 として身近な地元の山の 良 さ そのすば を見直

感であり悔やまれます。 足のまま締切日を迎えたというのが 短く瞬時の出来事のように思え、不満 月は、仕事を持つ身に取って余りにも

事を知ったのも大きな喜びで あ れ個性があり信仰や伝説を秘めている じることができました。山にはそれぞ 雑な入り組み、 て外観では見えなかった沢や尾根の複 きく変わる事に気付き、また山に入っ 角度から眺める事によって山の姿も大 るようになり、一つの山をいろいろの よって今まで見えなかったものが見え ないように見えた山でも対応の仕方に なく終わっていたかも知れません。 山は高きが故に貴からず」何の変哲も 山を除き山陰の山々の良さを知る事 しかし、この事業がなかったら一部 植生の変化等を肌で感 りま

の山々の良さを発見していただき、 りますが、一人でも多くの人々に山 ました。このような不完全な冊子であ として古えより大切に引継がれて参り 文化を育む母体であり人間の生活の場 われゆく自然を守る為の一助になれ 山 は水を生む源であり、 川は流域

540-1990 · 6 · 20 (第三種郵便物認可) 山 望外の喜びとするものであります。

頁 平成元年十月二十八日 日本山岳会 陰支部発行 定価二〇〇〇円 A4変型判 二〇 (税込) (岡本康夫)

平成元年十月吉日

日本山岳会山陰支部長港

叶

新生「土曜会」 発足す。

河 幾 雄

満室の大盛況であった。 名随筆である。山田会長以下二十五名、 た「土曜会・今昔」という坂倉さんの とって、正に記念すべき一日となった。 新生「土曜会」の発足である。 火をつけたのは、 平成二年四月十四日は日本山岳会に 先月号に掲載され

湾から蔡禮楽という方が干肉と煙草を ひとつの会である。 ると、一人でも出て来られた。土曜会 たも同然であった。 「土曜会が懐しくてやって来たよ」と台 は山岳会のクラブライフを楽しめる唯 からであった。考えてみると、土曜会 は無くしてはならぬ!と言う堅い信念 は昭和六十二年六月のある土曜日、 った。鶴岡元之助さんが毎週土曜にな この二年ばかり、 土曜会は無くなっ それで思い出すの 然し火は消えなか

会員の皆様はどうか気楽に出席して山 なったが、以前の土曜会は氏にかほど まる定例集会日にいたします。 ら五時まで。 の話に打ち興じて下さい。午後二時か の印象を残すほど楽しかったらしい。 ある。一寸立ち寄られてすぐお帰りに お土産にして、 特に第二土曜日は皆で集 お見えになったことが

宏、宮下秀樹、 中井修二、原田之幹、松田雄一、松本 山崎郁郎、 徳久球雄、中保、名児耶達男、内藤勇、 (参加者) 今井喜美子、 関根吉郎、 河野之保、 岡野修、小倉厚、片岡博、 以上二十五名 山田二郎、 関塚貞亨、鶴岡元之助、 坂倉登喜子、 乾能尚、 山口一孝、 鴫原啓 河野 大塚

(平成二年四月十五 日

'89年次晚餐会記念山行

佐々木 民 秀

内で一路県立奥武蔵自然公園の日和田 寸 山 池袋線の高麗駅に百名の会員が集合 縮図そのものであり、 は、 かぎりである。 高麗の町を行く中高齢登山者の大集 盛会だった年次晩餐会の翌日、 (三〇五・一 ば) めざして出発した。 受付後の午前十時、世話役員の案 まさに変貌した現在の登山界の まことに頼もし 西武

この辺一帯産業の山となっており、 って仏塔の建つ山頂に十時五十分頃到 る。やがて急坂の連続となり、 工美林を眺めながら静かな 山道を 辿 も興味深い高麗本郷から入山したが、 帰化人の里として知られ、歴史的に

雑木に邪魔されていまいちである。 り満足出来るが、富士山などせっかく の優れた眺望が、 車道にいったん出て、この山中最も かつての信仰登山の面影も残ってお 過保護か人手不足

連山の大パノラマを満喫しつつ楽しい 世話役員が茸汁を準備しており、快晴 展望の優れた奥武蔵独特の山上の集落 もとに会員各々親睦を深める。 昼食となった。実にのどかな雰囲気の のもとに富士山や丹沢、そして奥秩父 駒高に十一時十分頃到着。ここでは、

点があり、これが一等とあって一同大 中高齢登山者ならではの演出である。 満足。撫でたり記念撮影やらで大賑い。 物見山(三七五・四景)に向うが、 分程ですぐ到着。少し外れた所に三角 ったりしてのんびり歩き、 午後一時、記念撮影の後次の目標 植林地の坦々とした山道を車道を横 北向地蔵

今年もされて会いましょう

山腹にヒッ

・登り切 北の田舎も顔負けの地である。 聞いたが、実にのどかな所であり、 ソリと隠された二戸だけの農家がある を経て午後二時三十分頃、 ユガテに到着した。 "湯が出る" からに由来していると

同駅で散会した。

を終了。またの再会を約して午後四時

一休み後、

東吾野へ無事下山し登

東

ある。 一とした計画で十分と思われる。 今後も山の高さや形にこだわらず、

何より形式ばらない自由参加に魅力が

全国集会とは異なった趣きがあり、

末筆ながら厚くお礼申し上げておきた 大なるご苦労を掛けお世話になった。 高齢者でも気軽に参加出来、親睦を第 担当された総務の世話役員には、多 秋田支部)

オリエンテーション雑感

山 鋭

山 を愛する者にとってJACは大き 会員にとっては大変ありがたいことで

年次晩餐会の記念山行は、

我々地方

胸の中で思う。 たものの、入会できたらどんなにかと、 れた時など、私なんかと、 な存在である。 知人から入会を奨めら 一応遠慮し

あった。 なく敷居の高さと、 いものを感じた。 した時など年甲斐もなく胸の奥底に熱 その念願が叶い、 会に対してはなんと 近寄り難いものが あのバッギを手に

者のメッセージが配られるなど新会員 とくに今回は会のしおり、 れもキメ細い、暖かい配慮が感ぜられ、 待も暖かい。 ージが印刷配布され、 うな小集会にも名簿、 く杞憂に過ぎぬことを知った。 を迎える会の姿勢がよく伺われた。 今回のオリエンテーション、 それは新入会員の集いで全 その後、 年次晩餐会と山 入会者のメッセ 役員の方々の応 多くの入会 あのよ いず

る考え、日常の鍛練等々聞くべき多く 山を通じての楽しい語らい 尽しの料理、初対面同志とは思えない て山田会長のお話、 スト遠征時の挿話、 時の回顧、 の会の説明、 云々の開会の挨拶に始って、 意見の開陳があった。 村木副会長の、 新会員からも環境保存 映画、 松田常務理事の海外遠征 私は不幸にも副会長 神崎元理事のエベレ 世話役の方々の心 パーティーに が への確固た 藤井理事 もたれ 移っ ている、ポピュラーなコースです。 中寺等、 物語』の青頭巾の話で有名な、 されたと伝えられる太平神社、 しの藤」

時いだいた杞憂も消え、

このホ

ス

し

た一行は、太平山登山口客人神社の

により貸出します。

さて、東武日光線新大平下駅に集合

由緒ある佇まいを山懐に配し などの七不思議で知られる大

諸兄と、山を想い、 できる役員の皆さんと、 を得たことを心から喜ぶ。 タリティーな会の 山行を共にする幸 一員となり、 頼もしい会員 敬 愛

٤

(会員番号一〇四 1九四)

さくらハイ

新 井 文 男

今年は例年にない早い桜の開花、

そ

る景観を配している。 年ほど昔、上杉謙信が山頂から果しな 平野とを境にする標高三四三点で四百 総勢四十四名が参加しました。 員との親交を深める、さくらハイクに 平山自然公園 を「陸の松島」と譬えられたと言われ さに改めて感嘆、 く広がる平原を見渡し、関東平野の広 して新緑の芽吹きが、ここ栃木県立太 四月十五日、 また平安初期、慈覚大師により創建 太平山は栃木県南部に位置し、 一帯を覆っている。 新入会員の歓迎と旧 その眼下に見た情景 関東 会

> まれた中に太平神社が鎮座している。 奥に老杉に囲まれ荘厳な雰囲気につつ 返し登ると、周囲が開けた山道に出た。 ちて来そうな気配を気にしながら、 前で賑う土産物店、 いて謙信平へと向う。 る山桜が白い群となって霞んでいる。 前面に広がる淡緑色の斜面には点在す 斜のきつい杉林、 に入る。薄鉛色の空から今にも雨が落 小さな鳥居を右手に見て石段 登りつめると茶店があった。 緩やかな起伏を繰り 茶店が並ぶ。その このあたりは門 の登山 一息つ 傾 道

全員で和やかな昼食となる。 念ながら見ることはできなかったが、 間神社の祠があり、その裏が山頂とな 右手の急な岩道を登りつめると富士浅 っていた。 ここから山頂まであと一息、 眺望は霧にさえぎられて残 神社の

味わったあとは、 い飲物、 みして、 己紹介、 昼食には委員の方の心づかいで暖 「太平だんご」に全員が舌づつ 山の歌へと山頂に和が広がっ 花よりだんごでお花見気分を 神崎さんの司会で自 カン

> 19 寺への道を見送り内堀へ向って一気に ぼいっぱいとなった。 三角点あり)に到着、 寺へ下る分岐点を通過する頃より雨が 石祠がある狭い晃石山 なって、 ラツキ始めた中を晃石山 体に感じて来る。ぐみの木峠で大中 小さな鳥居の奥に山頂を示す標識と 下山にかかる頃は霧の流 樹林帯を吹き上げる霧が冷え 一息ついて清水 山頂は一行でほ (四一九二一等 へ向う。 れ も活 一発と

農道を進 声を聞きながら山里に沿うぶどう畑 鳥であろうが鴬のまとまりのない 樹林も明るさを取り戻すと、 多分幼 ・啼き

下りとなる。

た。 おり三一二点の山頂にあるマイクロウ すっぽりと雨雲に覆われている、 ェーブの二基の鉄塔が、 行を見送ってくれているようであっ 過ぎ行く山をふり返ると、 かすかに我々 もう全山 とき

(会員番号一〇五一三)

日 本 山 岳会

フ イルムライブラリーご利用について

「根な 『雨月

フ 1 ル A 委 員

会

本山岳会の保有する映画フイルム

並びにビデオテープ等を、以下の規定 有効にご利用下さ 利用規定 利用ご希望の方は、 日本山岳会事

(11)

																(另	马二	理型	便物	祁山	1) 1	4	34	0-1	990			20
二、希望作品名 (リスト番号)題名会員番号	一、利用者住所・電話・氏名・	利用申込要項	●映画フイルム・ビデオテープ等	ことを原則とします。	八、利用者は、日本山岳会会員である	担いただくことがあります。	合は、その度合により相当額をご負	七、フイルムの切断損傷、紛失等の場	てください。	書に書いてフイルムとともに返却し	その際、切断・損傷の内容を報告	んで返却してください。	を差込み、そのままの状態で巻き込	パーフォレーションに目印として糸	で補修したりしないで、その箇所の	傷した時は、勝手にセロテープなど	六、フイルムの場合万一切断または損	とをお願いします。	利用者のことを考え、大切に扱うこ	五、作品上映に際しましては、あとの	四、利用期間は十日間を限度とします。	者側でご負担願います。	三、フイルム等の送料と返送料は利用	にお支払いください。	ストをご覧ください。料金は利用時	テープ等、および利用料金は作品リ	二、利用出来る映画フイルム、ビデオ	務局へお申し込み下さい。
		()フィ	ルム		1 1	およ	びえ	利用	料金						五、	四	容	三	=	_			五、	四		三、	
9	1	١	ル	製造年	告	製	5	作	ā	者	上時	央利	用料(円)	金)		利用者	作品	谷	切断	観客粉	利用回	利用報		利	利		利	
7 1	- ス	IV V	40	195	6 4	11.	н	映	酺	糾	974	2	20.00	00		用来	TITA		阿	各数	出	用规		用	用		用	

|1956| 毎 日 映 画 社 |97分| 20,000 ジュガールヒマール 1958 日 本 テ レ ビ 60分 12,000 (白黒・テープ) エベレストへの道 1970 NHK テレビ 80分 16,000 ナンダデヴィ縦走 1976 日 本 山 岳 会 30分 6,000 穂 高 讃 歌 1979 ジンプロダクション 33分 7,000 チョモランマ 1980 日本テレビ 90分 18,000 チョモランマ北壁隊 1980 日 本 テ レ ビ 30分 6,000

◎ ビテオテープ (VHS) の利用料金:500円 注意 複製は御遠慮ください

目 場 期 損傷があった場合、その内 的所 間 月年 利用料金 日 月 日

フィルム委員会保管リスト (2)

ビデオテープ (VHS·β) 保管リスト 2

日本山岳会フイルム委員会

年

07750	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	-			н	THEA	177二天吴五
No.	題 名	種類	時間	制 作 者	制作年	寄贈者	備考
2	穂高60年史(重太郎さんの足跡)	VHS	56分	晚像開発 今田英雄			
3	山 男	VHS	54分	福原健司			山岳映画
4	人間の記録(アルプス賛歌) 西堀栄三郎 アルピニズムの先駆者 (エベレスト登頂の足跡) ノエル・E・オデル	VHS	前半 30分 後半 30分	NHK	1980. 9	テレビ放映録画	制作場所 上高地・山研
5	チョモランマ北壁隊 (JAC)	VHS	27分	日本テレビ映像セン ター	1980. 5.10		
6	「西蔵(チベット)世界の屋根を行く・ヒマラヤ千古の道」NHK 特集	VHS	前半 50分	NHK	1981. 6.29		田部井淳子 シシャパンマ隊
7	スイス・ベルンのアルペン・ミュー ジアム	VHS	9分	布井育夫	1984. 8		(保管)
8	カンチェンジュンガ縦走	VHS	44分	日本山岳会	1984		JAC 登山隊 の記録
9	カンチェンジュンガ 水曜ロードショー "とんだ、登った 8000 m" 冒険野郎氷壁に舞う(ハンググ ライダー)	VHS	110分	日本テレビ	1984		コマーシャル 入り
10	日本山岳会自然保護委員会	β		日本山岳会	1985. 5. 18~19	-	
11	日本登山史80年 近藤信行 創立80周年記念番組	VHS	45分	NHK Etv 8	1985		テレビ放映録画
12	第Ⅲ回宮崎ウエストン祭	VHS	40分	日本山岳会宮崎支部	1986. 11. 3	大谷 優	三秀台
13	マナスルに立つ (1975.10)	VHS	100分	毎日映画社	1988. 3		JAC 隊
14	ヒマラヤ展 (展示物の紹介)	VHS	33分	大町山岳博物館	1988. 7~9	大町山岳 博物館	サイレント

ビデオテープ (VHS・β) 保管リスト 3

日本山岳会フイルム委員会

No.	題	名	種類	時間	制	作	者	制作年	寄贈者	備	考
15	県境を行く (日本の屋根アルブ	スを越えて)	VHS	54分	TBS			1988. 9.15		コマ	ーシャル
16	ズームイン朝 "あどべんちゃーレ	ディ"	VHS		佐藤ラ村里洋	ドル		1980.10. 13~31		ニュド編	ージラン
17	早池峰山		VHS	17分	田中禾	ıJ—		1983	坂倉登喜子	原版	8、映画
18	白 馬(今井通子の トレッキン	名山 グシリーズ)	VHS	53分	学	研				購	入
19	穂 高(今井通子のトレッキン	名山 グシリーズ)	VHS	54分	学	研				購	入
20	燕から (今井通子の 槍へ トレッキン	名山 グシリース)	VHS	54分	学	研				購	入

映画フィルム (16ミリ) 保管リスト 1

日本山岳会フイルム委員会

No.	題	名 種類	音 声	時間	長さ ft	制作者	制作年	寄贈者	備考
1	マナスル	白黒	OP サウンド	20分		毎日映画社			VTR プリント済
2	標高 8128 m マナスルに立 (第三次マナスル登山隊―1	つ 956) カラー	OP サウンド	97分		毎日映画 社・映配㈱ 共同制作	1957.10		文部省特選
3	ドキュメンタリー・エベレフ	オト① カラー	OP サウンド	80分		NHK-TV	1970		
4	エベレスト 第1集 300キロのキヤラパ 第2集 氷雪とたたかう 第3集 頂上に立つ	ンカラー	OP サウンド	各30分		NHK	1970		
5	エベレストへの道 総集編 (日本山岳会エベレスト登山	1970 カラー	OP サウンド	80分		NHK	1970		前半 キズあり
6	ナンダデヴィ縦走	カラー	OP サウンド			日本山岳会	1976		
7	ナンダデヴィ縦走	カラー	OP サウンド			日本山岳会	1976		保存版 持出禁止
8	特番チョモランマ 全3巻	① ② ③ カラー				日本テレビ			W
9	特番チョモランマ 全3巻	① ② ③ ① ② 力ラー ③ 3				日本テレビ			保存版 VTR- プリント済
10	チョモランマ北壁隊	カラー	MG サウンド	30分		日本テレビ	1980		®
11	チョモランマ北壁隊	カラー	MG サウンド	30分		日本テレビ	1980		保存版
12	マナスルに立つ	カラー	MG サウンド	102分		毎日映画社			ビデオ有 持出禁止
13 14	黒部の秋	① 白黒	サイレント	30分		別宮貞俊	1929	別宮貞俊	ビデオ有 デュープ
15	真川より黒部川,剣沢入り	白黒	サイレント	24分		別宮貞俊		別宮貞俊	デュープ
16	欠 番								
17	スキーツアー	白黒	サイレント	12分		別宮貞俊	1929~30	別宮貞俊	ビデオ有 デューブ
18	欠 番								

映	画フィルム(16ミリ)保管リスト	2					日本	山岳会フィ	ルム委員会
No.	題 名	種類	音 声	時間	長さ ft		制作年	寄贈者	備考
19	新高山遠征	白黒	サイレント		400 ft	鈴木正俊	1938.12~ 1939. 1	鈴木正俊	
20	穂高岳讃歌	カラー	OP サウンド	32分		ジンー プロダクシ ョン			文部省特選
21	ネパール	カラー	OP サウンド	. 20分	720 ft			高橋 照	英語版
22	ジュガールヒマール 全1巻 ビッグホワイトピーク初登頂	カラー	OP サウンド			プレ	1962	高橋 照	1962年度民放祭 最優秀賞 1962年エミー賞 3 位受賞
23	アイガー北壁 (40年10月放映)	白黒	OP サウンド			日本テレビ		高橋 照	24こま
24	僕の剣岳 (夏)	カラー	OP サウンド	25分		高橋 照	24	高橋 照	24こま
25	厳冬の鹿島槍東尾根	カラー	OP サウンド					高橋 照	24こま
26	1月の穂高(明神東稜)	白黒	録音 テープ付	40分			1979. 1	高橋 照	16こま
27	氷雪技術(富士山講習会)	白黒			600 ft			高橋 照	16こま
28	冬富士 (大宮口)	白黒	サイレント		800 ft			高橋 照	16こま片穴
29	積雪期の魚沼三山初縦走の記録	カラー	サイレント					高橋 照	16こま
30	積雪期の上越国境縦走 巻機山・清水峠編 全2巻	白黒	サイレント		600 ft			高橋 照	16こま
31	奥秩父 (山梨県観光映画)	カラー	録音テー プあり	30分	900 ft		1960	風見武秀	
32	八ガ岳 清里高原 (山梨県観光映画)	カラー	サイレント	20分	1000 ft		1961.11	風見武秀	
33	南アルプス (山梨県観光映画)	カラー	録音テー プあり	23分			1959	風見武秀	
34	富士五湖(山梨県観光映画)	カラー	録音テー プあり	28分				風見武秀	
35	ヒマラヤ氷河の旅 ① (深田隊) ②	カラー	録音テー プあり	60分		山映— プロダクシ ョン	1958	風見武秀	
36 37	ジュガール・ヒマール ① ジュガール・ヒマール ②	白黒	サイレント	28分 28分		N.T.V	1958 1958	風見武秀	
38	ランタン・ヒマール	カラー	録音テー プあり	17分	600 ft	風見武秀	1958	風見武秀	
39	ヒマラヤ・カトマンズ・ネパール 各カット 1巻	白黒				山映— プロダクシ ョン		風見武秀	21カット
40	剣岳・岩と雪の王国	カラー		30分	1080 ft	ホープ		風見武秀	解説付き
41	氷河への旅 (ジュガール・ヒマール)	白黒	MG サウンド	30分		教育映画配給	1958	風見武秀	
42	ニューギニア	カラー	サイレント	23分		風見武秀		風見武秀	
43 44	ニューギニア 2巻	白黒	サイレン ト	15分		風見武秀	1961. 4	風見武秀	

映	画フィルム(16ミリ)保管リスト	3					日本	山岳会フィ	ルム委員会
No.	題 名	種類	音 声	時間	長さ ft	制作者	制作年	寄贈者	備考
45	バンコック, 水上部落	カラー		8分	300 ft	風見武秀		風見武秀	
46	ビルマ・ラングーン, バゴダ	カラー		10分	360 ft	風見武秀		風見武秀	
47	インドの旅			5分	180 ft	風見武秀		風見武秀	
48	アンコールワット			3分	100 ft	風見武秀		風見武秀	
49	冬の八ヵ岳	白黒	サイレト	12分	430 ft	風見武秀		風見武秀	16こま
50	アルプス飛行、日光、尾瀬	カラー	サイレト	13分	450 ft	風見武秀		風見武秀	
51	私のスキー日記 日光,白根山スキー	カラー	サイレト	7分		風見武秀	1954. 2	風見武秀	
52	春雪の鹿島槍	カラー		11分	400 ft	風見武秀		風見武秀	
53	ザイラーの日本訪問 (石打スキー場)	白黒	サイレト	ン 10分		風見武秀		風見武秀	
54	イタリーの山スキーと地中海 (イタリー映画)	白黒		10分	720 ft	フォスコ・ マライニー		風見武秀	
55	銀界の弥次喜多 ドイツ・スキー	白黒	サイレト	ン 8分		風見武秀		風見武秀	字幕あり
56	スキーへの招待 八甲田山 (全3巻)	白黒	MG サウン	ド 27分		風見武秀		風見武秀	蔵王もあり
57	欠 番								
58	欠 番								
59	冬の北海道 十勝 (風 景)	カラー	サイレト	ン 7分		風見武秀		風見武秀	
60	剣岳にいどむ	白黒		6分		NHK 塩田		風見武秀	
61	岩は呼ぶ 夏山					今泉プロ		風見武秀	
62	欠 番								
63	氷河への旅	白黒	MG サウン	ド 30分		教育映画配給	1958	風見武秀	
64	懐かしの山	白黒	MG サウン	卢 23分		風見武秀		風見武秀	
65	冬のロータン峠 バンジャブヒマラヤ	白黒	サイレト	ン 20分		三田幸夫他	1930. 1	三田幸夫	ビデオ有
66	お山の凱歌			9分	330 ft			風見武秀	
67	魔法の靴			10分	360 ft			風見武秀	
68	白魔は招く(蔵王)	白黒	サイレト	ン 14分		今泉プロ		風見武秀	字幕あり
69	ヒマラヤへの道(東海岳連) ジュガールヒマール遠征の記録	白黒		20分		中日映画社 羽田栄治撮影	1960	羽田栄治	35 mm → 16 mm ワイド版
70	女7人アンデスを行く エーデルワイスクラブ10周年記念	カラー	OP サウン	下 25分	900 ft	NTV	1966. 5~8	坂倉登喜子	

映	画フィルム(35ミリ)保管リス	(h	L						日本	山岳会フィ	ルム委員会
No.	題名	1	種類	音	声	時間	長さ ft	制作者	制作年	寄贈者	備非
1	ナンダコット征服 (立教大学山岳部 1936)	1	白黒	サイト	レン	28分		毎日映画社	1938		ビデオ有 <u>可燃性</u>
2	冬の新高山遠征 (早稲田大学山岳部)	1	白黒	サイト	レン	分		読売新聞社 映画部 鈴木正俊	1938.12 ~39. 1	鈴木正俊	
映	画フィルム (8ミリ) 保管リス	i	Ĺ						日本	山岳会フィ	ルム委員会
No.	題名	1	重類	音	声	時間	長さ ft	制作者	制作年	寄贈者	備 非
1	エベレスト	ŀ	白黒	サイト	レン	分		国分勘兵衛	1924 ?	国分勘兵衛	
2	岩登り技術(応用編 1)					25分		文部省企画		羽田栄治	16 mm →
-	岩登り技術(応用編 2)					25分		サー 羽田栄治		羽田栄治	8 mm
3	日本山岳会年次晩餐会							高橋憲二	1973.12 1974.12	柴崎 徹	ホテルニ ージャパ 京王プラ ホテル
4	日本山岳会 創立70周年記念年次晚餐会							高橋憲二	1975. 12. 6	柴崎 徹	京王プラ ホテル
5	日本山岳会年次晚餐会							高橋憲二	1976. 12. 4	柴崎 徹	京王プラ ホテル
6	日本山岳会年次晚餐会							高橋憲二	1977. 12. 4	柴崎 徹	京王プラ ホテル
7	日本山岳会忘年会							高橋憲二	1977. 12.14	柴崎 徹	JACルー 湯島サク ビル
8	日本山岳会年次晚餐会							高橋憲二	1978. 12. 2	柴崎 徹	京王プラ ホテル
9	日本山岳会支部長会議 鳥海山登行								1972. 6. 16~18		
10	残雪の十勝岳 日本山岳会北海道支部							高橋憲二	1973. 6.19	柴崎 徹	
11	日本山岳会支部長小集会 信濃支部							高橋憲二	1974. 10.12	柴崎 徹	中房温泉
12	木暮祭 金山平							高橋憲二	1977. 5.14	柴崎 徹	有井館
13	日本山岳会福島支部 創立30周年記念							高橋憲二	1978.10. 8~19	think the	野地温泉
14	日本山岳会北海道支部15周年 ペテガリ岳							高橋憲二	1978. 6. 16~18	柴崎 徹	
※井の各里事、太田岩	た	山 議 案	六〇〇二番)	の目的を以て、呻斎忠	名補充の件	議事する。	多いので、理事・評議 多いので、理事・評議	表 表 長 大 野 目、河 野、山 野 川 大 野 田 席 藤 平 副 会 長 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	川上、沢村、吉村、 古島、鴫原、橋本、 古田会長 は		会務

P、 関口、松本、石橋、 云長、村木副会長、松田、 田沢、早坂、小林、入 四月十九日十八時半~ 太田監事、小倉、大島、 本会会議室

めるので、国際関係強化 田議案の件 (計、これを承認する。) 条に基き、理事会が作 神崎忠男会員(会員番 を推薦することを決め

事・評議員会の形式で開 山野井、大森の各評議員 **倘本、今西、大塚、広羽、** 日村、室賀、井上の各評 云長、村木副会長、小倉、 日村両常務理事 長を選任、重復議事が -副会長、奥原、日下田、 本会会議室

四月十九日十八時~

鴫原、 理事、飯野監事、 委任出席 橋本の各常任評議員 藤平副会長、藤本、 大森常任評議員 伊丹両

◎会長挨拶

開催準備は、ヒマラヤ関係四団体で協 開催することが決まった次回の会議の ヴェンチュアー・トラストの国際会議 たい旨の説明があった。 議し、組織委員会を作って準備に当り の報告、ならびに一九九一年秋日本で ニューデリーでのヒマラヤン・アド

決算報告の件 ⑴平成元年度事業報告ならびに収支

②評議員一名補充の件 査報告があり、これを承認する。 田監事より適法且つ正確である旨の監 があり、収支決算報告については、太 資料に基き担当理事より詳細な説明

号三九六七番)を選任することを決め 物故された古市義孝評議員の後任に 福島支部委員の佐藤光氏(会員番

とになる。 含む総会提出の全議案が承認されたこ 平成二年度事業計画、 ③平成二年度除籍対象者の件―承認 これを以て三月の理事会で承認した 収支予算(案)を

(1)自然保護(松本)

新たに委員として本多勝一会員 宝. 12 9 4 日 日 日 学生部総会 図書委員会 青年部委員会

3 日

婦人懇談会

番)を追加することを承認②集会(入 七六六番)、中村武雄会員(一〇五四七

日中に契約することにする。 名簿を検討、この八十九名を以て、 指導者賠償責任保険に対する指導者

(3)山研(石橋

日谷川合宿を行う予定。パミールのキ 4青年部(早坂 ャンプには七月十二日出発の予定。 予定通り四月二十八日に開所する 五月二<六日剣岳合宿、 六月二~三

開催し、本年度計画の審査を行う予定。 (5高所登山(重広) 海外登山基金委員会を五月十一日に

(6)総務(藤井)

山で実施。 十五日、四十四名の参加を得て、 新入会員歓迎サクラハイクは、 四月

◎其の他 日(土)を開催日とすることを決める。 来年度の通常会員総会は、 五月二十

名 \widehat{Y} M

本日の入会承認者二六名、

復活会員

IL アム日誌

(4月)

千田博之。

19 18 日 日 16 14 日 日 阪上 26 日 23 20 日 日 24 日 17 日 窪田祥三郎 (八五七〇) 退 会員異動 「この人と語ろう」山野泰史氏 土曜会 員会 理事会、評議員会、科学研究委 資料委員会 自然保護委員会 総務委員会、フイルム委員会 山岳図書を語る夕べ 山研委員会、三水会 監查、常務理事会 **4** 月

4月来室者30名

義次(八八六五)

タンボチェ僧院再建協力 募金者ご芳名

高島法男、近藤薫、竹内康之、小田孝、 林辰夫。二千円—岡田茂久、三橋勉、 大槻雅弘。一千円—松田敏男、 五千円—石村揚正。三千円—山村孝夫、 イタル、山口節子。六千円―寺本昭一、 一万円一後藤三男、酒井敏明、杉山 田中節子、安田範明、 山崎大造、

額一、八三四、

000円

五月一日現在累計二〇二名、

累計金

中心として雨衣のシンポジュームを開 場日 きます。 登山衣料の専門家である安田先生を ●第二 所 青山学院大学総合研究所 十一月中旬 るお知らせ シンポジューム 回雨衣の (下着、肌着も含めて) -665 もお知らせ この電話で しています

ます。新素材がたくさんでている折、 したので、第二回目は縫製、デザイン 実際山で使ううえで参考になると思い 使用法および適応条件等について行い 第一回目は素材を中心として行いま

科学研究委員会

ますので、ご出席下さい。

•)探索山行のお知らせ

号に掲載します。 行を行います。詳しいお知らせは八月 マに、左記のように講演会と探索山 今年の探索山行は、蔵王の地形をテ

講演会 時 平成二年十月二十日(土)~二 二口温泉(仙台市太白区) 十一月(日) K

タン

の新地図 カラコラム二五万分の

していきたいと思います。

自然保護に

き、その後この議題を中心に皆で討議 にあるべきか」と題して語っていただ

発行します。 色刷、二枚組のカラコラム地図を 研究財団(SFAR)は新しく三 九九〇年五月末にスイス山岳

8045 Zürich 宛 Alpine Reserch Binzstrasse の地名リストが付けられている。 印刷はスイスで行います。等高線 資料をベースとして、地図表現と には索引としてアルファベット順 の標高数値が含まれている。裏面 〇〇以上の地名と、一五〇〇以上 つきのスケルトンマップに、二五 ポーランドのJ・ワラ氏の調査 販売は Swiss Foundation for 二九フラン

T (宿泊

コース A В 裏磐司紅葉探索 大東岳登山

科学研究委員会

自然保護講演会

山岳会における自然保護活動は如何 今回は村木副会長を講師に迎えて、

ボ チ I 僧 院の 再 建に協力しましょう(一口、 五〇〇〇円

待ちします。 関心のある一般会員の方のご出席をお 村木潤次郎氏

場 日 時 七月十三日(金) 十八時三十分~

所 本会ルーム 自然保護委員会

第十回日本登山医学 シンポジュウム

ポジュウムを開催いたしますので、 左記により第10回日本登山医学シン ふ

場 期 るってご参加下さい。 日 7月14日(土)~15日(日) 東京アルカディヤ市ケ谷 私

所 学会館)

①一般演題 発

②特別講演

・日本登山医学のおいたち

生体リズムと登山 辰沼廣吉名誉会員

③シンポジュウム 広重力教授(北大第 一生理

> 中高年登山者の諸問題 (1)脳神経外科の立場より 田中壮吉(多野総合病院)

呼吸器の立場より 一内科)

(2)

小林俊夫(信大第

整形外科の立場より 堀井昌子(神奈川ガンセンター) 循環器の立場より

(3)

長尾悌夫(聖マ医大)

(4)

レーニングの立場より 浅野勝巳(筑波大)

(5)

日本登山医学研究会

ます。 七月十四日午後七時より開催いたし 設立五十周年記念祝賀会

会 費 三〇〇〇円

申し込み先 〒23 厚木市水引ーー 外科内 ☎○四六二—二一—一五七 〇内線二〇二 六一三六 神奈川県立厚木病院整形

日本登山医学研究会会長 大森薫雄

平成二年六月二十日 102 東京都千代田区四番 サンビュウハイツ四番町 町五 1 四

発行 所 法社 人団 日 会

発行

編集代表 東京都港区赤坂一ーニー六振替口座 東京三一四八二九番 電話東京 (紀) 四四三三 電話東京 (紀) 四四三三 の四三三

印

刷

所

式会社